

## 今こそ、産学連携し、中小企業支援

= 日本機械学会 中小企業支援事業委員会 発足 =

社団法人 日本機械学会

社団法人 日本機械学会（会長：白鳥正樹）は、地域の産業振興に役立つ中小企業に対する人材育成支援や会員シニアの技術的知見の活用等を通じた技術的支援ならびに顕彰制度制定などを目的に、「中小企業支援事業委員会（委員長：村上俊明）」を発足（第一回委員会 5月15日開催）した。

### < 目的 >

中小企業は、我が国の製造業出荷額の約50%シェアを持ち、また、労働集約型産業が多く、「ものづくり」という視点から機械技術・機械工学との接点も多い。また、人材育成と企業成長は密接な相関関係があり、人材育成の視点から中小企業においても人材育成に熱心な企業ほど成長しているといわれている。「中小企業支援事業委員会」では、中小企業に対する人材育成支援や会員シニアの技術的知見の活用等を通じた技術的支援に加えて、日本機械学会が管理法人として5地域と連携して展開中の経済産業省「産学人材育成パートナーシップ事業」自立化後の地域間連携機能も検討する。

### < アンケート調査 >

機械学会は、技術者の資質向上に関して、中小企業の実情ならびに行政や学会に対する要望を把握するために、4月にアンケート調査を行った。経済産業省で元気のある企業と表彰された企業（600社）も含めて1845社を対象にアンケート調査（回収率：28.6%）した結果、製造現場に携わる人材育成に対する期待や要望は、大企業から小規模な企業まで共に高いことが分かった。自己啓発に対する支援や人事考課への反映では、企業規模の差が見られ、人材育成の環境や大学との連携状況は、大企業と中小企業の差は、明瞭であった。

また、「技術者の人材育成は10～20年の期間で考えるべき」「中小企業から見て学会は敷居が高い」「技術相談の窓口が欲しい」などの貴重な意見が寄せられたので、アンケート結果を更に精査して委員会活動内容の具体化に役立てると同時に、委員会メンバーである「コンシェルジュ」<sup>(注)</sup>を中心に貴重なご意見を頂いた企業を訪問して学会と中小企業の距離を縮めてゆきたい。

### 註) コンシェルジュ:

人材育成プロジェクトでは、一流ホテルのコンシェルジュの仕掛けを導入し、こちらから中小企業経営者に出向き、人材育成に関する課題やニーズご要望を直接お聞きして中小企業技術者向け講座開発に役立てたり、各拠点で開講する受講者派遣をお願いしている。

### < 発足までの経緯 >

日本機械学会ではこれまで、中堅・中小企業対象の「日本機械学会優秀製品賞」の新設、中小企業技術者の育成事業、会員シニアが中小企業などで活躍する場の提供などを行ってきた。

このように、日本機械学会の中小企業支援の可能性が見えてきたので、「中小企業支援事業委員会」を新規に発足し、活動を拡大・強化してゆく。

現在までの主な活動内容は、

#### 1. 平成17年には「日本機械学会優秀製品賞」を新設。

従来の技術賞が大企業や大型技術に多く贈賞されてきたが、中小企業の受賞のチャンスはごく稀だった。この背景を受けて、部品レベルであっても、下支え的な製品・技術であっても高い市場占有率を得た製品であれば、受賞できるよう新しく優秀製品賞を新設した。この結果、多くの中小企業からの応募が寄せられ、中小企業と機械学会の垣根が低くなり、特別員の加入を期待している。

#### 2007年度日本機械学会優秀製品賞決定（2008年8月7日受賞式）

1. 放電サンプリング装置 <(株)神戸工業試験場>
2. 立体機械式駐輪場「サイクルツリー」 <JFE環境ソリューションズ(株)>
3. 小型ロータリ除雪車 <新潟トランス(株)>
4. 発電用大型原子炉圧力容器および大型蒸気タービン用ロータ超大型一体鍛造製品 <(株)日本製鋼所>
5. 5軸制御立型マシニングセンタ NMV5000DCG <(株)森精機製作所>

#### 2. 中小企業技術者育成事業

平成18年に経済産業省委託事業「産学連携製造中核人材育成事業」を受託したことである。本プロジェクトは、学会機能を活用した中小企業の技術者の人材育成を目的とし、5地域（茨城、群馬、埼玉、東海、九州）の大学・自治体・産業界との連携で中小企業技術者向けの実践的講座「メカトロニクス・ロボット分野」を開発するもので、機械学会は、管理人として、中小企業向けのナショナルプロジェクトを推進している。



#### 経済産業省委託事業

「メカトロニクス・ロボット分野」人材育成

実践的講座風景

### 3. 会員シニアが中小企業で活躍

平成 19 年には日本機械学会 OB 技術者に対する活躍の場の提供の新たな取組みである。中小企業では、技術者の質・量の不足感とともにグローバル化時代における新技術開発などの課題を抱えている。機械学会は、会員シニアの方々へアンケートによって、中小企業などの支援活動への参加希望を調査した。その結果を受けて、埼玉県（団塊世代活動支援センター）のご協力のもとに「埼玉県在住の本会会員の方」と「OB 人材の支援を希望している埼玉県内経営者」との交流会を開催し、中小企業で OB 技術者が活躍している。初めての試みであったが、中小企業では専門知識と多くの経験、そして高い見識をもつ人材を必要としていることが分かった。



日本機械学会 OB 技術者と  
埼玉県内経営者の交流会

問合せ先：社団法人 日本機械学会 能力開発促進機構

住 所：東京都新宿区信濃町 3 5 番地 信濃町煉瓦館 5 階

Tel: : 0 3 - 5 3 6 0 - 3 5 1 1